

# 薬用植物園に 雲ヶ畑エリア



雲ヶ畑に育つ植物を集めて整備されたエリア。植物の数を増やしつつ一般公開なども計画したいという  
(京都市左京区・武田薬品工業京都薬用植物園)

## 左京・希少種など20種保全へ

京都市左京区の武田薬品工業京都薬用植物園に、北区・雲ヶ畑地域に育つ貴重な植物を1カ所に集めた「雲ヶ畑エリア」が誕生した。鴨川の源流地域にあたる雲ヶ畑には府絶滅危惧種の草花も含め400種以上が生育しており、市民と協力しながら豊かな植生を次世代につないでゆく。

雲ヶ畑は滝や岩壁、緩急のある斜面など変化に富んだ地形で、多様な植物を育んできた。2008年には市民団体「雲ヶ畑・足谷 人と自然の会」が発足、保全活動に取り組んでいる。だが近年は会員の高齢化や雲

ヶ畑地域の過疎化、自然環境の変化などへの対応がそれぞれ課題に。希少な草花の絶滅を防ぐため同植物園と協力し、雲ヶ畑以外の場所でも保全の可能性を探ることになった。

雲ヶ畑で育つ草花の中でも、ベニバナヤマシヤクヤクは府条例により、採取や他地域での栽培には府の許可が必要。同植物園は許可を得て昨年3月に現地株や種子を採取、園内での「生育域外保全」を始めた。その後園内の北西向き斜面約50平方メートルを「雲ヶ畑エリア」として確保し、現在はコアサイヤやエヒネ、シヨウシヨウバカマなど約20種

市民に公開計画も

## 「関心持つきっかけに」

を育てている。

植物園では、ヤマシヤクヤク類の発芽特性調査などの研究活動も実施しており、科学的な知見を通して将来の保全活動に役立てるといふ。雲ヶ畑に比べて交通の利便性がよいことから、雲ヶ畑エリアを市民に公開する計画もあり、野崎香樹園長は、会社の社会貢献活動の一環として貴重な植物の保全に役立つことができればうれしいと話す。月1度は会員が植物園を訪れてエリアの整備活動が続いている。運営委員長の西野護さん(76)は「活動はまだ緒に就いたばかりだが、多くの人が雲ヶ畑の自然や文化の魅力に関心を持つきっかけとなる場所に育てたい」と期待する。(太田敦子)